

研究結果報告書

所属 上海交通大学外国語学院日本語科

役職 講師

氏名 李 思齊

【研究テーマ】

「満洲国」留日学生に関する文献資料整理と研究

【研究結果】

本研究は、「満洲国」留日学生に関する文献資料を収集・整理し、それに基づいて研究を行った。以下はその主な研究成果である。

まず、1932年から1944年までの「満洲国」留日学生名簿をデータ化した。多数の名簿を収集し、校正・照合を行い、重複や誤りを排除した。最終的に満洲国滅亡までの12年間、5269名の留日学生情報を確認し、出身地域や入学年などの情報に基づいて統計分析を行った。その結果、1931年の満州事変後、留学人数が一時的に減少したが、1934年から1937年にかけて増加し、その後、七七事変に伴い減少し、その後は緩やかな推移を示した。また、女性留日学生の割合が増加し、その年齢層も低下した。

次に、「満洲国」留日学生の『会報』を整理し、約20000字の目次と内容索引を作成した。『会報』の内容を分析した結果、日偽政府の洗脳宣伝や、学生の思想や生活記録などが含まれていることがわかった。中には、「大東亜共栄」理論や「日満一体一心」などの言論を鼓吹するものもあれば、学生が愛国抗日の声を表現する文章も見られた。

さらに、1931年9月18日から1944年9月までの『盛京時報』の留日学生関連報道を整理し、内容索引を作成した。報道内容を分類すると、留学生の留日・帰国や在日学習に関する報道が最も多く、それに続いて政府の留学政策の通知や、学生の投稿、政界名人の子女の留学情報などがあった。

以上の研究成果を通じて、「満洲国」留日学生の基本情報や留学生活、そしてそれらが大きな時代背景とどのような関係にあったかを明らかにした。また、これらの成果は、近代中国の留日学生教育史や、日本の植民地奴化教育史の研究に新しい資料と研究視点を提供するものと期待される。ただし、今回の研究にはまだ不十分な点もあり、今後は、歴史資料と建国後の回想録やインタビュー録を結合させ、『会報』や『盛京時報』の報道をより深く分析する予定である。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

近代東北留日学生史概観、李思齐、百場学校レベル学術講座、2023年5月31日、華東師範大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「満洲国」留日学生名簿についての研究 ―学生名簿から見えるもの―
(現段階では修正採用を経て、修正中)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

《伪満洲国留日学生組織史研究》, 李思齐, 上海交通大学出版社, 2026年。(暫定)